



島根大学広報誌 広報しまだい

Shimadai

2014.10 vol.22



島大生の日常をご紹介 ■ キャンパスチエック！

地域に貢献する 島根大学卒業生たち



特集
1

地域に貢献する 島根大学卒業生たち



座談会参加者 (左から順に)

田原 彩子さん
法文学部 法経学科卒
島根県土木部 土木総務課勤務

秋間 哲兵さん
法文学部 法経学科卒
島根県防災部 防災危機管理課勤務

塩飽 邦憲
島根大学理事(企画・総務担当)
／副学長

三谷 佳奈子さん
総合理工学研究科
博士前期課程 総合理工学専攻卒
島根県土木部 建築住宅課勤務

瀧野 信一さん
法文学部 法経学科卒
島根県土木部 益田県土整備事務所
津和野土木事業所勤務

■島根大学の研究・地域貢献事業紹介

- ① 教育学部 境英俊教授 7
- ② 生物資源科学部 古田賢次郎助教 9

■COC事業レポート11

■しまだイトピックス 13

■しまだいNEWS 17

留学生が日本語弁論大会で外務大臣賞を受賞・
「しまね数リンピック」出場の附属中学生

■シリーズ企画 総合医を目指して 19

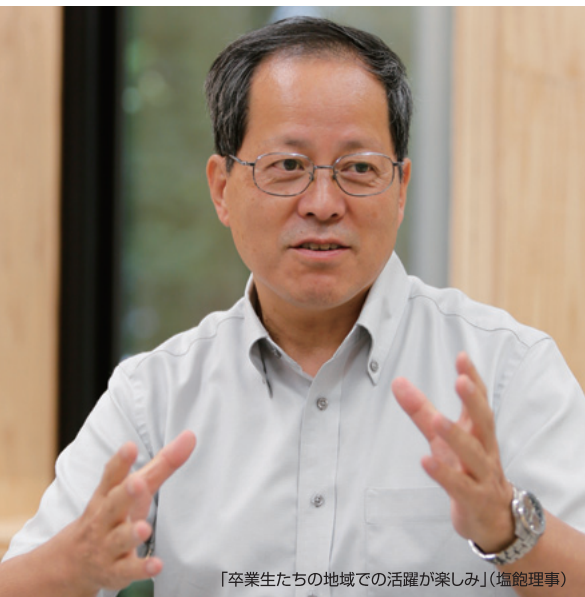
■海を越えた島大生 20

■キャンパスチェック 21

■学生プレス研究会 23

■サークル紹介 25
ユースホステルクラブ／手話サークル

■島根スサノオマジック紹介・
島根大学支援基金寄附者一覧・プレゼント 26



「卒業生たちの地域での活躍が楽しみ」(塩飽理事)

今春、島根大学からの卒業生16名が島根県庁に就職しました。卒業生たちはどのような思いで地域貢献の道を目指したのでしょうか。就職して約半年、社会人として奮闘する卒業生の今を座談会でお届けします。

大学生生活の中で、自分の住んでいる町に触れる経験が「地域のために活躍したい」と考える原動力に

理事 皆さん、現在ほどのような業務に携わっているのですか？

行われているかどうかの確認業務に携わっています。

瀧野 公共事業を行う際の用地を確保するために、土地の所有者に補償等の説明をさせていただく「用地業務」を担当しています。

秋間 私の所属は「防災危機管理課」。災害による被害軽減のため、市町村の防災行政を推進したり、防災に関する研修、講演会を開催する業務を行っています。

三谷 「建築住宅課」に所属し、建築基準法に依って建築行政が

まします。

田原 私は建築業者に對して許可を出したり、建設業法に則った業務を行っています。

理事 様々な部署で活躍されていますね。ところで、なぜ県庁への就職を希望したのですか？

瀧野 大学3年の時にインターンシップで県議会議員の事務所に行か



座談会の会場となった「学生市民交流ハウス」。島根大学の学生と地域の方々との交流の場として、今春完成しました。地域の人々とのコミュニケーションを大切にする公務員の彼らにとって、まさにぴったりの場となりました。

せていただいたのを機に地域との関わりを持つようになり、地域のイベント等で活躍している人がこんなにいるのか、と興味を持ったのがきっかけです。自分も彼らのように地域に出て活動したいと考えるようになりました。

秋間 私もインターンシップがきっかけですね。もともと大学に入る前から地域貢献の仕事に就きたいと考えていたのですが、島根県の交通対策課で交通安全運動に参加し、ボランティアの方が熱心に活動されている姿を見て「こういう活動を支援したい」という想いがより一層強くなりました。

田原 私の場合は、大学のゼミの影響です。買物弱者の研究を

2014.10 vol.22 Shimadai

島根大学広報誌
広報しまだい

■〈特集1〉卒業生による座談会

地域に貢献する
島根大学卒業生たち 1

■〈特集2〉島根大学のいま

出雲文化学課外ツアー・
アオギリのうたコンサート 5

しており、地域の方へのヒアリング調査の中で「島根県は好きだけど、人口減少や少子高齢化等の問題が顕著なので、将来住み続けられるか不安」という声をよく耳にしました。そのような社会問題の

解決に貢献する仕事がしたいと思ひ、県職員を目指しました。
三谷 私は、大学で建築を通して地域のことを学び、自分が学んだことを生かしながら生まれ育った島根県のために働きたいと考え、

公務員を目指しました。また、女性が結婚後も働き続けられる環境が整っていることも公務員を志望した理由の一つです。

公務員試験へのモチベーションを保つポイントは

達成感の積み重ねと「地域への熱い想ひ」

理事 県のために働こうと思っても、公務員試験は高いハードルだったと思います。どのような勉強法で乗り越えたのですか？

三谷 私は参考書を1ページずつ順番に、コツコツなしました。

田原 私も、一からひたすら問題を解き進めました。ただ、公

務員試験は出題範囲が広いため正直手が回らない教科もあり、「最低限やる科目」と「全部やる科目」を決め、メリハリをつけて勉強していました。

秋間 毎日「今日はここまで」と目標を定め、達成感を積み重ねるのも、公務員試験までのモチベーションを保つ秘訣かもしれません。

理事 最後まで諦めずに頑張ったからこそ、皆さん合格されたんですね。(瀧野さん・秋間さん・田原さんを見ながら)ところで、今年度の公務員試験に合格した島大生のうち多くが、あなた方3名を含む法文学部法経学科の卒業生ですね。何

か特別な学び等があるのでしょうか？

秋間 公務員試験の専門教科でも一般教養の科目でも、「法律」「経済」は試験科目なので、大学の学びがそのまま試験に生かせるのは法経学科ならではの強みですね。

田原 確かに。あと、周りに公務員を目指す学生が多いという環境も良かったです。仲間が頑張っている姿を見ると「自分も負けていけない！」という気力がわいてきます。

瀧野 みんなで一緒に勉強し、分からないところを教え合ったりできるのも励みになりました。

理事 法経学科は、色々な意味で公務員を目指す学生には恵まれた環境なんですね。では、実際

に社会に出た感想はいかがですか。大学での学びや地域貢献活動は、仕事の現場でも生かされているのでしょうか？

瀧野 私の場合、学生時代に若者の手で政治を良くしようという「ポリレンジャー」の活動を通して県や市の職員の方と交流があったため、社会人になってからも職場の人とすぐにコミュニケーションをとることができました。明るい職場で働きやすいです。

秋間 確かに、社会に出たらあらゆる年代の方と関われるのが面白いですね。仕事を通して人間関係を構築する方法を日々勉強しています。それと、私は防災関係の部署なので災害に関する法律に触れる機会が多いので



「仕事を通して人間関係が広がるのが楽しい」(秋間さん)



「大学で学んだことを県のために生かしたい」(三谷さん)



「自ら外に出て、公務員のイメージを変えたい」(瀧野さん)

秋間 私はも地域の人のコミュニケーションを大切にして、より多くの県民の方とつながるのが夢です。もちろん、県民の方全員と直接知り合いになることは不可能ですが、皆さんの口から自分の名

三谷 建築や土木に携わる職には、まだまだ女性が少ないです。そのため島根県では



「先輩方のような幅広い知識を身に付けたい」(田原さん)

「8時間だけ公務員」ではなく、「24時間島根県民」として自分たちの手で、島根県の未来を創り出していく

すが、法経学科で様々な法律を学んだ経験が役に立っています。
三谷 私は、学生時代に参加した設計競技や修士論文の研究で多くの地域住民の方々と関わることができました。そこで、様々な人の立場を理解したうえで物

事を進めていくプロセスを学び、今後の仕事に活用できる貴重な経験となっています。
田原 私の所属する土木課は、災害現場に一番に入っていく、責任の重い仕事です。私自身、直接現場に行く事はないのですが、

そのように重要な仕事のサポートができ、非常にやりがいを感じています。また、会議の議事録を作ることがあるのですが、大学のゼミで調査の要点をまとめたり、レポートを作成した経験が仕事に生かされています。

「ドボジョ」というネーミングを掲げ、建設業のイメージアップを図っています。今後現場等を任された際には、働く自分の姿がそうしたPRに繋がれば幸いです。
理事 皆さん、自分のことを「8時間だけ公務員」と考えるより「24時間島根県民」として捉えた方が、公務員としての拠り所として良いのではないのでしょうか。誰しも「職場の生活」「家庭の生活」「地域の生活」がありますが、「仕事は仕事」とだけ捉えるのではなく、3つの生活を1つのポリシーで繋いでいく。そうすると、例えば「女性がもつと輝く」ということもつながると思います。卒業生の皆さんのこれからの活躍に期待しています。

理事 まだまだ皆さん、社会で学ぶべきことがたくさんあると思います。最後に皆さんの今後の夢や目標を聞かせてください。
瀧野 世間では公務員のイメージははつきりしていないと思います。何故なら、公務員が何をし

ているか具体的な活動が見えないから。それならば自分が積極的に外に出て行き、地域の人と共に活動することで公務員のイメージアップを図りたいですね。また、島根県民は「島根には何もない」と自虐的に捉えているところがあるので、自分の住んでいる場所に誇りを持っていただけるようにしていきたいです。

前が挙がる位、何らかの形で関わりを持ってたら素敵ですよ。
田原 私は県の仕事全般を早く理解したい。先輩たちを見ていると、自分の担当業務外もきちんと把握していらつやいます。私も事務方という職業柄、将来他の部署に異動する可能性があるので、どこに変わっても対応できるように幅広い知識を身に付け、いざ後輩ができたらかきちんと教えてあげられる人になりたいです。

市民と学生が松江の今昔の魅力を再発見 第3回「出雲文化化学」課外ツアー『城下町・松江探訪』



7月5日、第3回「出雲文化化学」課外ツアーとして、『城下町・松江探訪』を行いました。当日は「出雲文化化学」第9回目の講義を行った松江市史編纂委員である大矢幸雄氏を解説者に迎え、市民・バスポート会員と学生、合計19名が参加。松江市の古地図を手に、江戸、明治時代の

街並み、歴史に想いを馳せながら松江城周辺を巡回しました。

大矢氏による、当時の様子を蘇らせるような生き生きとした解説に、参加者は歴史ある松江の魅力を再発見するとともに、長年居住しながら、意外に知ることの少ない由緒ある史跡の由来やその後の変遷について見識を深めました。小雨の降るあいにくの天候でしたが、松江の今昔、そして静かなたたずまいに秘められた奥深い魅力を存分に満喫した一日となりました。



当日の感想を聞いてみました!



松江市在住 葛上さん 三島さん 横山さん
(市民バスポート会員)

参加者の感想



松江市史編纂委員
大矢 幸雄さん

講師の感想

これまで、城下町松江に関する講座に多く関わってきました。島根大学での一般市民も対象にした授業は初めてです

が、参加者の反応も良く、学びの姿勢を感じました。また、島根大学は県外からの学生も多い大学ですから、新しく入学する学生が地域について学べる機会を設けることも非常に意義のあることだと思います。

松江市では、開府400年に対する様々な取り組みの結果、市民の地域史への学びの意識が高まっており、生涯学習へ積極的に参加するネットワークも形成されてきています。このタイミングで大学が地域へ学びの門戸を開くという姿勢は、非常に歓迎されるべきことだと思います。

大学の授業や課外ツアーならではのメリットは、普段では入れない様な場所まで案内してもらって詳しく話を聞けることです。渡される資料も細かく丁寧で、感激しました。生まれ育った街を再認識する良い機会になったと思います。

また、学生と一緒に講義を受ける機会もありましたが、講師の方が話す内容もレベルが上がり、とても刺激になりました。

「知りたい」という気持ちは、幾つになっても変わりません。今後もこういった機会を利用しながらできるだけ参加して、みんなと一緒に勉強していきたいです。



「広島之歌」グランプリ曲『アオギリのうた』 作者の島根大学生が 広島の母校でコンサート

広島市などの幼稚園や保育園、小中学校で歌い継がれている『アオギリのうた』の作者である森光七彩さん（法文学部3年生）が、6月30日、広島市の母校で児童を前に弾き語りを披露しました。

森光さんは、音楽関係の仕事をしている両親の影響で、物心がつい

た頃から曲作りを始め、小学2年生の時に『アオギリのうた』を作曲。翌年、広島市が募集していた「広島之歌」に応募し、見事グランプリに選ばれました。以来この曲は、子どもたちだけでなく広島の人々に親しまれ続けています。

今回、卒業した小学校のイベントの一環として声がかかり、小学3年生と4年生の児童約200人の前で歌うことになった森光さん。小学生たちも一緒に笑い、笑顔で歌声を響かせていました。



被爆ピアノで演奏する森光さん。



広島市に投下された原爆で被爆しながらも、奇跡的に生き残った「被爆アオギリ」。現在は広島平和記念公園内に移植されている。

【解説】広島市が平成12年度に「新しい時代の広島のみちづくり」の一環として制作を企画した「広島之歌」には、国内外から915点の応募がありました。その中からグランプリに選ばれたのが、森光さんが作詞作曲した『アオギリのうた』です。現在この曲は、音楽の授業や平和学習の一環として広島市などの幼稚園や保育園、小中学校で歌い継がれているほか、一部の教科書にも掲載されています。また、同市の平和記念公園内の被爆アオギリ前に設けられた案内板からも流されています。

『アオギリのうた』
電車にゆられ 平和公園
やっと会えたね アオギリさん
小学校の校庭の木のお母さん
たくさん たくさん たね生んで
家ぞくがふえたんだね よかつたね
遠いむかしの きずあとを
直してくれる アオギリの風
遠いあの日の かなしいできごと
資料館で見た 平和の絵
いろいろな国の人々や
私がいまが考えてゆく 広島を
勇気をあつめ ちかいます
あそいのない国 平和の灯（ひ）
遠いむかしの できごとを
わすれずに思う アオギリのうた
これから生まれてゆく 広島を大切に
広島のがいはただひとつ
せかい中のみんなの明るい笑顔

作者の声
音楽の力をあらためて実感
法文学部 3年生 森光 七彩さん



この曲は小学2年生の時に、担任の先生にプレゼントする予定で作りました。平和学習に積極的だった先生に連れられて、クラスのみんなで平和記念公園のアオギリの木を見に行った日の思いが曲のテーマです。今回、母校で歌える機会を頂いたことは、とても光栄に感じています。小学生も笑顔で一緒に歌ってくれ、とても嬉しい一日でした。自分の知らない様々な場面で、自分の作った曲が歌われていることに、音楽の力をあらためて実感します。これからも、音楽が社会に果たす役割について勉強を続けていきたいと思っています。

広島市の担当部署の声

広島市市民局文化スポーツ部 部長
小西 雅俊さん
(文理学部法学科 昭和56年卒)



奇遇ではありませんが、私も島根大学出身で、森光さんには縁深いものを感じています。

森光さんは、現在も『アオギリのうた』を通してヒロシマを伝える活動に取り組み、御活躍されているとのこと、大変嬉しく、また、ありがたく思っております。今後とも音楽活動を通じて、広島の世界恒久平和を願う心を次世代に歌い継いでいただくことを期待しています。



スポーツを通じた 人材の育成と地域貢献

教育学部は、教育者を育てる学部。剣道7段の腕前を持ち、剣道部の監督も務める境教授に人材の育成について話を伺いました。

教育学部 健康・スポーツ教育講座 教授

さかい ひでとし
境 英俊

剣道でも水泳でも子どもを教えるのはとても楽しいものです。この喜びを学生も感じて、教育者として成長して欲しいですね。



教員を目指す学生に 生きた経験ができる場を

毎年夏になると、島根大学では子どもたちを対象にした水泳教室が開かれる。この教室では、教育学部の学生が中心になって子どもたちを指導しているが、その指導する学生を、さらに指導するのが教育学部の境教授。健康・スポーツ教育が専門で、剣道部の監督も務める。

境教授が島根大学に赴任したのは昭和59年。すでにそれ以前から水泳教室は行われており、境教授は保健体育の教員と共同で指導を始めた。大人用のプールに子どもが入るため、水位を下げるなどの工夫を凝らし、安全面には充分配慮。そして学生と一緒にすることで、キメの細かい指導が可能になった。境教授は、この「学生が指導する」という部分に重きを置いている。教育学部の学生は、将来

剣道の普及活動を通じて地域に貢献

自身も7段の腕前を持つ剣道には、境教授は特別の思い入れを持つ。「幅広い年齢層が同じ土俵で楽

的に教員を目指す割合が高い。そういった学生が、座学だけでなく、実際に子どもたちとふれ合いながら指導をすることは、後に大きくプラスになると考えているからだ。

この考え方は、自身が専門とする剣道にも生かされている。毎年、春に県内各地で行われる剣道部の合宿は、学生が自分たちの稽古をする場ではない。地元の小学生から高校生を対象に、学生が教える立場として行う合宿である。全ての部員が対象ごとに分担を決め、指導内容から自分たちで考えて運営を進める。学生に任せるのは、「自分で何をやりたいかを考え、明確にしてから進む方向を決めて欲しい」(境)という方針が基礎にあり、こうした経験が、学生の教員としての将来に生きた教材として役立つべく。

しめる特性は、数あるスポーツの中でも珍しい」と語り、様々な場で指導・普及に尽力してきたが、同時



境教授は剣道の普及活動にも携わる。



教員を目指す学生にとって、子どもへの指導は有意義な実践の場となる。



全日本東西対抗剣道大会での一コマ。右が境教授。

注目キーワード

生涯教育推進センターが公開講座として毎年開いている教室で、小学3年生から6年生を対象に「泳げない子の水泳教室」と「少しでも泳げる子の水泳教室」の2種類が行われている。昭和50年頃から始まり、毎年定員いっぱいになるほどの人気講座。学生が中心となつて、まずは顔を水に浸けるといった慣れるところからマンツーマンで指導し、楽しみながら徐々に泳ぎを教えていく。中には50メートルを泳げるまでに上達する子どももいる。

島根大学の水泳教室

教室に参加した子どもには認定証が渡される。



に指導者としての難しさも痛感している。掲げる目標は、効果的な指導法の確立。剣道というスポーツは、技術の向上はもちろんのこと、礼儀や作法など、人としてのあり方も重んじられる。そのためには、「なぜそうするのか？」を理解して納得しながら習得していかなければならぬ。指導する立場としては、いかにして相手を「人に教えてもらう」姿勢から「自ら学ぶ」姿勢に変えられるかがカギ。前述の、学生の自主性を重視する指導方針にも共通する部分だ。

心となつて進める春合宿のほか、平日も松江市の武道館などで講師を務める。こうした活動は、子どもたちだけでなく保護者や教育関係者からの評価も高く、さらに教え子が成長後、再び剣道の普及に携わってくれるといった好例も出てきた。「島根大学は地方大学ですから、こういった形で地域貢献できるのは大変うれしいことです」と境教授。今後もスポーツを通じた「人材の育成」に力を尽くしていくことが目標だ。



昆虫のホルモンのみに作用する 害のない薬剤開発を目指す

昆虫のホルモン作用を抑制する化合物を新しく合成し、その作用機構を解明。新しい薬剤の開発につなげることを目標に研究を続ける古田助教に話を伺いました。

生物資源科学部 生命工学科 助教

ふるた けんじろう
古田 賢次郎

自分で考えデザインして合成した化合物が高い生理活性を示した時はわくわくします。
研究への意欲がさらに湧いてきますね。



実用化への期待が大きい殺虫性の低い農薬

昆虫は幼虫の時に脱皮を繰り返して成長し、蛹（サナギ）へと変態。やがて羽化して成虫になる。この脱皮や変態のほか生殖腺の成熟など、多様な生理調整機能に関わっているのが幼若ホルモンと呼ばれる、昆虫のみにしかないホルモン。古田助教は、幼若ホルモンの作用を抑制する新しい薬剤の開発と作用機構の解明を目的に研究を行っている。この研究の成果によつては、より安全な農業が実現できる可能性がある。例えば、この幼若ホルモンの作用を抑制することで害虫の成長や繁殖を効果的に抑えることが可能になれば、他の生物には害のない安全な農薬の誕生へ道が開けるわけだ。

具体的な研究としては、これまでに幼若ホルモンの作用を抑制することが分かっている化合物を基に、その化学構造を改変してコンピュー

タ上でデザインする。これまでの研究の積み重ねと、新しいひらめきが必要とされる作業だ。そうしてデザインした新しい化学構造をもった化合物を実際に合成し、モデル昆虫であるカイコの幼虫に処理して経過観察を行う。結果、カイコに現れた生理活性（＝生理調整機能への作用）を評価し、化学構造との関係を考察することで、より強く生理活性をおよぼす化合物の発見につなげていく。

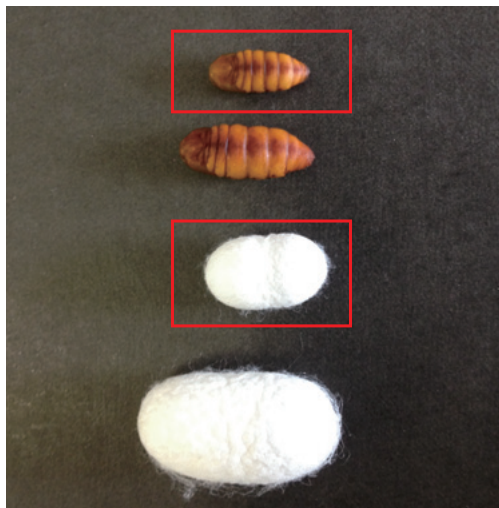
もちろん生理活性が強く現れたからと言って、即、新しい農薬の開発へと直結するわけではないが、幼若ホルモンを標的とした薬剤は昆虫にしか作用しない安全な農薬として、実用化への期待は大きい。「いずれは実用化を目指すことができるといふような優れた化合物を開発したい」との思いを胸に、古田助教は研究を続けている。

分析の経験を生かして地域に貢献

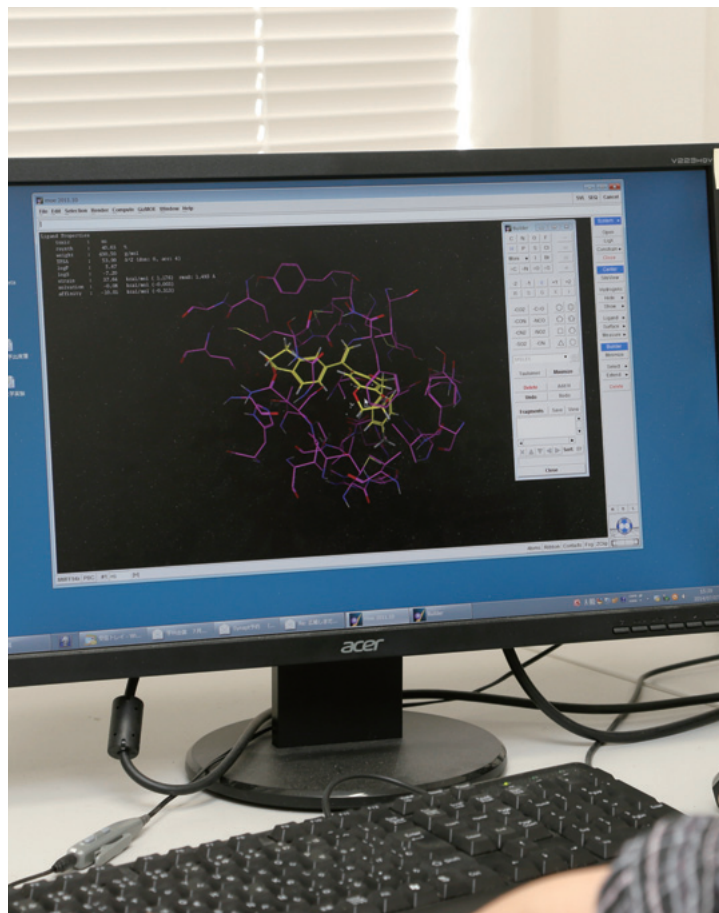
土壌の研究がしたくて大学は農学部に進んだ古田助教。「まだ誰も作つたことのない新しい化合物を

自分で合成できることに魅力を感じて」（古田）農薬化学の研究室に籍を置いたのがホルモン研究の始ま

カイコの早熟変態の例(赤枠内。成長して脱皮をする時期に蛹(サナギ)へと変態したことで、通常の蛹よりサイズが小さい。白いのは蛹を覆った繭(マユ)。



「学生は時に思ってもみないアイデアを出してくることがありますから、自主性を尊重しています。」(古田)



化合物の化学構造をコンピュータを使ってデザイン。

注目キーワード

昆虫のホルモンは、体液0.1ミリリットル中に200ピコグラム(1ピコグラムは1兆分の1グラム)程度のごくわずかな質量分しか存在しない。そうした微量の成分を測定する機械が液体クロマトグラフィ質量分析計。島根大学にあるこの分析計を使うことで、カレイに含まれる成分分析については、従来の6分の1の時間でより正確なデータが得られるようになった。

液体クロマトグラフィ質量分析計



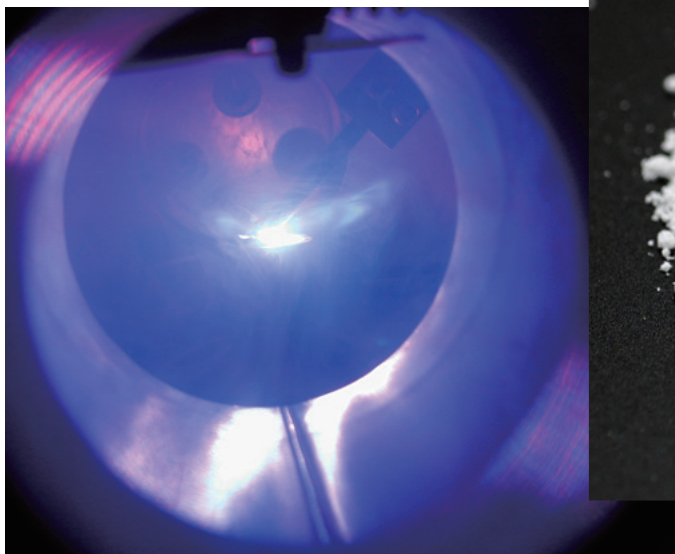
島根大学に備えられた液体クロマトグラフィ質量分析計

りだった。修士課程終了後、一時は製薬会社に就職したものの、やはり自分のテーマで研究に集中したいとの思いが強くなり、博士課程に再入学。島根大学に赴任したのは平成22年のことだ。

島根大学に来てからは、地域との関わりも深くなってきた。現在では、大学に備えられた質量分析計を使い、浜田市との共同研究も行う。水産物であるカレイに含まれるアミノ酸や脂肪酸を測定し、そ

の成分特性を明らかにする内容だ。これまでに、脂肪酸の季節による組成比の変化を調べることで、カレイの旬の時期を科学的に解明し、美味しさの一つの指標とすることができた。この結果は、はまだ産業界に報告され、市民講座も開かれている。島根大学として地域の活性化に貢献している研究の一つである。

亜鉛粉末をプラズマ中で生成することで窒素が添加され、p型半導体の特性を持つ。



酸化亜鉛の粉末。これ自体が半導体である。

身近な材料でナノテクノロジー

ナノテクプロジェクトセンター

島根県は石見銀山やたたら製鉄の長い歴史があり、伝統的に材料技術が発展してきた地域です。そうした環境にあつて、島根大学でも多くの研究者が材料技術に尽力してきました。その系譜の一つがナノテクノロジーです。

「ナノ」は長さの単位で、1ナノメートル(nm)は百万分の1ミリメートル。ナノテクノロジーとは、1〜100ナノメートルの世界に関わる技術のことです。具体的には、新しい性質や能力を持った物質の発見や製造技術の研究、そして分析技術や医療技術への展開などが当てはまります。

ナノテクプロジェクトセンターでは、約40名の異分野の教員が学際的な研究を行っており、安全で低コストなナノ材料の開発に特に力を入れています。中でもナノ粒子を塗布することによって、LED(発光ダイオード)などの様々な製品の材料を簡単に作製できる技術は、島根大学独自のものとして期待されています。

通常のLEDは基板にサファイアなどの単結晶素材を用いますが、この技術では、昔からベビーパウ

ダーなどに広く使用され、安全で安価な素材である酸化亜鉛をガラスなどに塗布することで、高価な素材を不要としています。現在はまだ開発の段階ですが、実用ベースとして確立されればLEDの製造コストを飛躍的に抑えることができるようになるため、今後の進展が楽しみな技術です。

島根大学総合理工学研究科
教授 藤田 恭久



地方の企業は自社で研究開発部門を持ってないところも多く存在します。そういった企業と大学が手を組めば、研究開発の部分を大学がサポートし、実用化を企業が担うという役割分担によって、大きな成果も生み出せます。島根県ならではの新しい産学連携だと思えます。

そういった形で地域に貢献していくことも、地方の大学としての大きな役割だと感じています。他では生み出せない新しいイノベーションを島根県から発信していきたいですね。

COC事業各プロジェクトセンターの動きを
トピックス形式で紹介します

▼
ウッド・デザイン
プロジェクトセンター

6つのテーマで調査研究を継続

島根県は国内でも有数の高齢者比率と木造住宅比率の高い地域です。そうしたことから、地域医療・地域介護の面からも、バリアフリーを含めた今後の木造住宅のあり方を、「エコロジー」や「省エネ」といったキーワードとともに再検証する必要性が求められています。地域密着を目指す島根大学としては、学術的な視点から、より豊かな暮らしを提案する責務が

あり、ウッド・デザイン

プロジェクトセンターでも、その一翼を担うべく、以下の6つのテーマを掲げて調査・研究を進めています。

- ① 木造建築を生かしたまちづくり
- ② 木造建築の安全性
- ③ 木造建築の住み心地
- ④ 木造建築の材料開発
- ⑤ 木造建築の遺産的価値の再発見
- ⑥ 木造建築の社会的プレゼンテーション



Wood Design Pro
<http://www.facebook.com/WoodDesignPro>



エコ3パネルを用いた耐力壁の壁倍率試験

▼
自然災害軽減プロジェクトセンター

山陰防災フォーラム
平成26年度春の講演会を開催

5月17日、山陰防災フォーラム平成26年度春の講演会を開催しました。参加者は43名で、島根大学の学生やコンサルタント会社に参加した卒業生らの参加が多く見られました。

学生にとっては、現場で働く卒業生の声を聞くことができ、有意義なフォーラムになった様子です。

山陰地域の
自然災害
データベースを
公開

山陰地域における地震災害、洪水災害、斜面災害、津波災害を含む自然災害のデータベースを公開しました。新聞各社やテレビ局の取材を受けたこともあり、データベースへのアクセス数は増加しています。



データベースURL (<http://www.geo.shimane-u.ac.jp/wangfw/database/homepage/index.html>)

▶ Google Earthを利用したデータベース

島大の多彩な活動を
チョイスしてお伝えします

しまだいい

トピックス



川津小学校の児童が島根大学を見学

未来の島大生?!がキャンパスを体験

6月26日、川津小学校3年生の児童60名が「総合的な学習の時間」の活動の一環として松江キャンパスを訪れました。

図書館や大学ホール、ミュージアムを見て回ったり、学長室では小林学長に質問をしたりと、普段とは違った大学の環境や雰囲気に関心を輝かせていました。

後日届いた児童たちからの手紙には、お礼の言葉とともに見学で驚いたことや楽しかったこと、学長室ではとても緊張したことなどの感想や、将来は島根大学に入学したいといったコメントも見られました。約10年後、今度は島大生として再び



キャンパスを訪れてくれることを願っています。



島根県社会福祉協議会と連携協力に関する協定を締結

安心・安全な

地域社会の発展に寄与

7月2日、松江キャンパスにおいて、本学と島根県社会福祉協議会との連携協力に関する協定の締結式を行いました。

島根県社会福祉協議会とは、これまでも「島根県災害ボランティア隊」への学生の派遣等、さまざまな連携協力を行ってきましたが、この度の協定締結は、安全・安心な暮らしができる地



域社会の形成や人材の育成に寄与する等、将来に向けた取組みについて、より一層緊密な連携・協力を推進していくものです。この協定締結により、島根大学の連携協定機関は23となりました。

アーカンソー大学の学生と英語高度化プログラム履修生との交流会を開催

英語実践能力のさらなる向上を目指して

松江キャンパスの外国語教育センターワークショップにおいて、6月15日、アーカンソー大学から来学した11名の学生と、英語高度化プログラム履修生、並びにカンバセーションパートナーとして協力している本学学生19名で、“Have Fun with English”と題した交流会を開催しました。



島大を身近に感じられるようになりました。頑張っておられる様子に、頼もしく思いました。
(島根県出雲市・60代女性)

島大入学を目指している次男(高1)のためにも、高校生向けの企画もお願いしたいです。
(鳥取県西伯郡・40代女性)

各学部が具体的にどのようなことをされているのか知りたいです。
(島根県安来市・50代女性)

トピックス・セレクション

▶ 2014.6.16

島根県警察サイバー防犯ボランティア委嘱式に9名の島大生が参加。インターネット上のサイバー犯罪の防止や啓発活動に努めることに。



▶ 2014.7.30

医学部附属病院で、島根県内の高校生を対象に「高校生手術部体験学習」を実施しました。



その他のトピックスもホームページで

島大 検索

www.shimane-u.ac.jp/

総合理工学研究科 高須晃教授が、独立行政法人日本学術振興会より「平成26年度ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を受賞しました。

この賞は、我が国の将来を担う子どもたちの科学する心を育み知的好奇心の向上に大きく貢献した研究者を讃えるために授与する賞です。

これまで高須教授は、小学校高学年を対象に、地下100kmに達するような地球の深いところ

のでできた変成岩を教材に用いて、実際に観察等の体験をしながら学ぶプログラムを継続的に実施してきたことが評価され、今回の受賞に至りました。



総合理工学研究科高須晃教授が
平成26年度ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞を受賞

子どもたちの科学に対する興味が
一層高まるプログラムを提供

特別編

松江キャンパスには1,305名、出雲キャンパスには575名の受験生・高校生や保護者の方々が来校し、活気あふれるオープンキャンパスになりました。

オープンキャンパス2014を開催しました！

松江キャンパス

8月7日(木)・8日(金)開催

法文学部・教育学部・

総合理工学部・生物資源科学部

各学部・学科紹介に加えて模擬授業や体験入学、研究室ツアーなどが行われ、参加した高校生は島根大学での学び方や大学の雰囲気を感じていました。また学生によるキャンパス案内や相談コーナー、キャンパス周辺のお店の軽食販売、ステージでのサークルや島根のゆるキャラたちによるパフォーマンスなど、学生自らが考え、実行した企画も好評でした。

一方、保護者対象企画では、学生寮見学や個別相談会などを開催。教職員に直接、学生支援体制を尋ねることで、大学進学を知るよい機会になったようです。

出雲キャンパス

8月3日(日)開催

医学部

学部説明や附属

病院などをめぐり施設見学、医療機器を使った体験実習等を通して、参加者は自分の将来や大学選びについて真剣に考えている様子でした。なお、出雲キャンパスでは、10月19日(日)にもオープンキャンパスを開催します。この機会にぜひご参加ください。

日時:10月19日(日) 受付10:00~
詳しくは島根大学ホームページをご覧ください。
<http://www.shimane-u.ac.jp/>「しまだい オープン」で検索



読者の声

広報しまだいVol.21に
寄せられた声をお届けします。

島大卒業生の活躍も、
どんどん紹介してもらいたいです。
(島根県松江市・70代男性)

様々な分野で幅広く研究・地域貢献を
しておられる事を知り、感動しました。
(島根県松江市・70代女性)

第50回全日本女子学生本因坊決定戦に出場

岸本真恵さん(医学部4年生)が 囲碁大会の中国四国代表に

8月8日～10日、東京の「いずみ囲碁ジャパン」にて、女子学生のみが参加できる「全日本女子学生本因坊決定戦」が行なわれ、中国四国代表として医学部看護学科4年の岸本真恵さんが出場。惜しくも決勝には勝ち進めませんでした。「小学生の頃から切磋琢磨してきた全国のライバルたちと久々に会うことができ、とても楽しかった」と語る岸本さんにお話を伺いました。

—— 囲碁を始めたきっかけは。

小学4年生の頃、友人に誘われて近所の囲碁教室に通ったことです。今年で12年目ですが、一度も辞めたいと感じたことはありません。もともと



と強くなりたい、うまくなりたいと思っ
て日々練習に励んでいます。

—— 囲碁の魅力を教えてください。

老若男女、国籍問わず様々な人たちと対局できること。盤上に石を置くことで、言葉は通じなくてもお互いの意図を理解できるのが魅力ですね。また、勝負所での駆け引きやギリギリの攻防は緊張感が一気に高まり、この感覚がとても好きです。

—— 囲碁を通して自分は

成長したなと思うことは。

調子がいいと感じるときに油断しないこと、良くないと感じるときに打開策を考えたり辛抱強く耐えることは、囲碁から学びました。日常でも困難な状況に直面した時に、手当たり次第、乗り越える方法をやってみる。ということと、鳥瞰し、ポイントを絞って方法を見つける。という両方の視点から捉えるように心がけています。

—— 将来の夢は何ですか。

企業の保健師を目指して就職活動中ですが、仕事と囲碁、どちらも頑張りたい。ずっと第一線で活躍し続けられたら幸せです。また、子どもたちの指導もしてみたいですね。

お知らせ

今年もやります!

「秋縁祭2014」

「大学生がつなぐ地域の縁」をコンセプトに、本学の武田翔太さん(生物資源科学部4年生)を中心に企画された「秋縁祭」。昨年10月に続き、今年も開催が決定しました!



■日時:10月25日(土)・26日(日)
15:00~21:00

■場所:松江城二の丸下の段

■問い合わせ先:shuensai.shimane@gmail.com

お知らせ

本庄総合農場「秋の農場一日開放日」

農場では「心身ともに豊かで質の高い国民生活を実現する農業生産を目指した研究、人材育成、そして地域貢献の推進」を目標にしています。一日開放日には、教育・研究紹介、農業体験(各種野菜の収穫など)、試食、関連生産物の販売等を行う予定です。この機会にぜひお越しください。

- 日時:平成26年11月1日(土)
9:00~13:00(予定)
- 場所:島根大学生物資源科学部
本庄総合農場
(松江市上本庄町2059)
- お問合せ先:0852-34-0311
(生物資源科学部・本庄総合農場)

一畑バス「美保関ターミナル」行き、旭の森(ひのもり)停留所下車。農場入口まで徒歩5分、主会場まで約15分。



地元に住んでいながら島大のことは分かりませんが、若い人たちの活動を見て微笑ましく思います。
(島根県松江市・50代女性)

島根県の将来のためにも、島大生の皆さんの活躍に大きな期待を持っています。
(島根県出雲市・60代男性)

国立大学法人化10周年を迎えて

2003年度の旧島根大学と島根医科大学の合併、2004年度の国立大学法人化を経て、創立60有余年の歴史を継承しつつ、総合大学として発展しています。

今年度は法人化10周年を記念して、本学の使命である島根から全国に発信できる人材を育て、島根を活性化する以下の事業を計画しております。

《記念事業等》

●地(知)の拠点事業

地域基盤型教育と学際的副専攻の拡大・強化
研究・教育の拠点としてのプロジェクトセンター

●国際交流の活性化

海外50校との連携強化

●市民参加の大学づくり

学生市民交流ハウス、市民パスポート会員制度、しまだいユーモア連歌大賞

●同窓会・卒業生との連携強化

古代出雲文化フォーラムⅢ(大阪)開催

《記念式典》

■日時／平成26年10月11日(土) 13:30～17:30

■場所／島根大学(松江キャンパス) 大学会館3階 大集會室

次第 【記念講演】13:45～14:30

「地方総合大学のイノベーションへの貢献―島根大学への期待―」

泉 紳一郎氏

(独立行政法人科学技術振興機構 社会技術研究開発センター長)

【島根大学COO事業の事業紹介】14:45～16:45

【表彰】17:00～17:30

Rubyプログラミング甲子園の表彰式

学長表彰式(大学に貢献した市民・団体等)

これらの事業を推進するため、みなさま方のあたご支援を心からお願ひ申し上げます。

【ご寄附の方法】ゆうちょ銀行・郵便局、その他の金融機関、インターネットからご入金いただけます。詳細は本学ホームページ、または総務課広報グループ(TEL:085213216603)へお問い合わせください。



お知らせ

LINEの公式アカウントを開設



イベントのお知らせや入試情報など、島根大学の様々な情報を定期的にお届けします。

LINEアプリを既にご利用の方はもちろん、これから利用される方も、ぜひ本学公式アカウントへのお友達登録をしていただき、ご活用ください。

【「友だち」に追加する方法】

- ①「その他」から「友だち追加」を選択。
- ②「QRコード」を選択し、右のバーコードを読み取る。または「ID検索」を選択し、「@shimaneuniv」を入力。
- ③「島根大学」と表示された画面で「追加」を選択し、完了。



お知らせ

島根大学大学祭を10月に開催

今年も学生による実行委員会が中心となり、各キャンパスにおいて大学祭を開催します。

様々なイベントを企画しておりますので、お誘い合わせの上、ぜひご来場ください!

【松江キャンパス】 凧風祭

■日時:
平成26年
10月12日(日)・13日(月・祝)

【出雲キャンパス】 くえびこ祭

■日時:
平成26年
10月18日(土)・19日(日)



読者の声

島大が地元にも根を張り、他の地域や世界へと活躍の場を拡げているのがよく分かりました。(島根県松江市・70代女性)

今、家族が島大医学部附属病院に入院しています。これからも世界の為の研究に期待しています。(島根県江津市・60代女性)

中国からの留学生が日本語弁論大会で外務大臣賞を受賞

第55回「外国人による日本語弁論大会」が5月24日に松江市で開かれ、島根大学の留学生、何曉恩(カギョウオン)さんが外務大臣賞を受賞しました。この大会は、外国人が日本での生活の中で体験したことについて発表するもので、今回は全国から97人が参加。何さんは「育爺時代の幕開け」のタイトルで熱弁をふるいました。



えました。

何さんがテーマにしたのは「育爺」(孫の子育てに積極的な祖父という意味)。育児という人間として普遍的な題材を元に、自身の母国での経験、そして日本に来て感じた両国間の違いなどもまじえて構成を考

えました。規定の6分できっちり収まるように、焦点を絞りながら何度もリハーサルを重ねた何さん。母国語とは違う言葉で多くの人に自分の意見を聞いてもらうという貴重な機会に「これまで日本語の勉強の集大成として」(何さん)挑んだ結果が見事受賞につながりました。まさか自分が一番大きな賞に選ばれるとは思っていなかったそうで、結果発表を聞いた瞬間は喜びよりも驚きの方が大きかったとか。将来は日本で培った経験を生かして、自分の専門分野で広く社会に貢献することを目標に勉強を続けます。

祖父のおかげで柔軟な考え方が身に付いた

島根大学に留学したのは、志していた微生物生態学の教授が在籍しているからです。元々日本に魅力を感じていて留学するつもりでしたし、祖母も日本人の勤勉さを知っていたので後押ししてくれました。

祖父の若い頃は、思うように勉強が

できる環境ではありませんでした。その中で努力して、自分自身で勉強を続けてきたところを大変尊敬しています。受賞については一番に報告しましたが、自分のことのように喜んでくれました。

日本語で好きな言葉



▲「島根県は日本文化を感じやすい場所。地方都市の可能性を感じます。」(何さん)

は、国会図書館にも掲げられている「真理がわれらを自由にする」です。人間にとって知識はとても大事なものの。知識が十分に備わっていれば、それだけ相手の話にもじっくり耳を傾けられると思います。これは国同士の関係でも言えるのではないのでしょうか。

「しまね数リンピック」で2年連続、満点での最優秀賞を目指す 島根大学教育学部附属中学校 中平 征志くん（3年生）

小・中学生の「学力向上プロジェクト」の一環として島根県教育委員会が2009年より実施している「しまね数リンピック」。2013年10月に行われた数リンピック学生個人の部において、島根大学教育学部附属中学校の3年生、中平征志くんが100点満点で最優秀賞を獲得しました。

学んだことを複合的に考え、1つの答えを導き出すことが楽しい！

中平くんは母親が数学好きで、2つ上の兄も2010年度の数リンピックで最優秀賞を受賞するなど、数学が身近な環境で育ちました。そのこともあり、趣味は数学。パズルゲーム「数独」というほどの数学好きで、中学1年生



の最優秀賞受賞という栄冠にちなげることができました。「色々な数式を組み合わせ、新しい問題が解けることに魅力を感じている中平くんは、数学



▲学校の宿題であるレポート。テーマは「平方根」で、紙の規格について考察している。

の勉強は長時間するのではなく、5分でも毎日することが力になると考えています。同じ中学校にもライバルが多い中、チャンピオンとして2度目の満点を目指し、日々勉強に励んでいます。

目標は高く持ち、学び続けたい

負けず嫌いな性格なので、学校の定期テストでも間違うと、「次こそは」といっそう熱心に勉強に取り組み、趣味の数独でも解けるまで一人で考え抜きます。数独のほかに本を読むことが好き。ミステリーやファンタジーなど、ジャンルは問いません。将来は自然科学や物理学などを学び、研究者になりたいです。



中学校の部活ではオーケストラ部に所属。小学校から習っているバイオリンは特技の一つ。

総合医として必要な 「高度な専門性」と「高い対応力」を学ぶ

特定の臓器や疾患に限定せず、あらゆる患者さんに対応する「総合医」のニーズの高まりを受け、島根大学が今年度より新たに設置した研修医制度の特別プログラムを紹介するシリーズの第2回。プログラムに参加して4カ月目の研修医・藤井俊吾さんに、その内容や日々の気付き等を伺いました。

消化器内科と腎臓内科の研修を通して、 各科によるものの見方、考え方の違いを実感

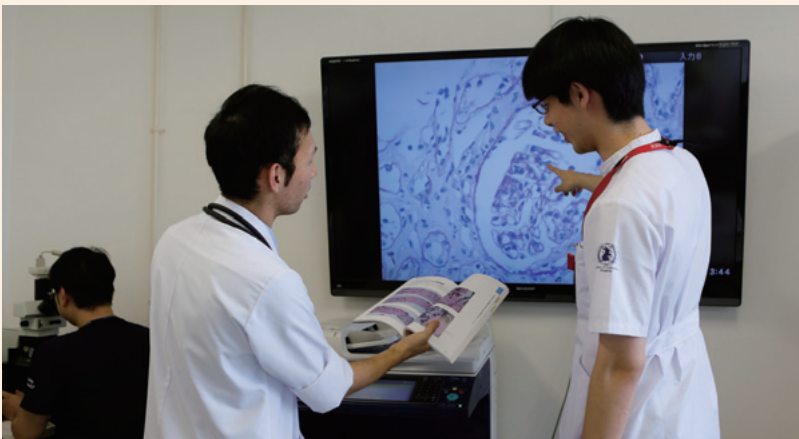
島根大学医学部附属病院において、藤井さんは消化器内科で2カ月、さらに腎臓内科で2カ月の研修に参加してきました。

「消化器内科と腎臓内科では、データの見方や物の考え方が全く異なります。例えば、消化器内科でよく行なわれるエコーや胃カメラは、画像を見ればどこに何があるのか原因が比較的分かりやすいところが腎臓は、画像上で直接病因となるものが見えません。そのため、検査の数値を見ながら『どうしてこのような結果になったのか』を先生たちとディスカッションしながら見つけていく必要があります。同じ血液検査1つ取っても、科

によって注目するポイントが全く異なるため、最初は頭の切り換えが大変でした」（藤井）。

毎日、新たな課題が見つかるため、ノートへの記録は欠かせませんが「一つひとつを暗記する為ではなく、物に対する多角的な見方や考え方を覚えておくために記入しています。学生の時とは違い『病態を観る』のではなく『患者さんを診る』ので、どれ1つ同じケースはありません」（藤井）。

また、研修を通して人間関係の大切さも実感。「将来、島根で医師として活躍する上で、自分の専門外の先生とどれだけ知り合いになれるか。そういう事も非常に大事だと実感しました」（藤井）。藤井さんの今後の研修に注目です。



腎臓内科にて。検査結果を見ながら、先生とディスカッション。

藤井さんのある1日のスケジュール (腎臓内科にて)

- AM 病棟にて血液検査の評価
↓
今後の治療法や投薬内容のプランづくり
↓
患者さんに説明
- PM 先生方の検査に同行
↓
入院患者全員のカンファレンス
↓
教授の回診に同行
↓
英語の論文の勉強会

研修医・藤井さんのつばやき

患者さんにとって病院は「非日常な空間である」ということを理解する

医師を目指す自分にとって、病院は生活の中の一風景でも入院患者さんにとっては「非日常の世界」。家族や仕事のことを心配し、気を揉んでいらつしゃいます。そのようなストレスを理解した上で、患者さん向き合う必要があると実感しました。



アメリカで身につけた主体性と「リアルな」文化の習得が自分にとって何よりの収穫

梅林 哲朗さん
(アメリカ「アーカンソー大学」へ留学／
法文学部4年生)



島根大学では言語とアメリカ文化を学んでいます。大学で学んでいる事を実際に肌で感じてみたいと思い、社会人になる前に留学することを決意。姉妹校であるアーカンソー大学に10カ月間の留学をしました。

最初の半年間は、英語だけ勉強する語学専門学校で、語学をみっちり。残りの半年は大学で経済とアメリカ文化、プレゼンテーションを専攻しました。留学して驚いたのは、他国からの留学生の積極性！ブラジルや中国、韓国等から



の留学生がどんどん発言するのを見て、自分も意識して前に出なくてはダメだ、と痛感。グループワークのまとめ役をかって出るなどして、積極性・主体性を身につけました。

また一番印象に残ったのは、アメリカ人のコミュニケーションの親密さ。自宅で家族との食事に招待してくれたり、何か相談すると本気で心配してくれたり。日本とはまた違う「全力のおもてなし」がありたく、自分も困っている人を見たら親身になって助けようと思うようになりました。

将来、商社などに就職したら、英語力だけでなく、アメリカで学んだ文化も生かしていきたいです。



留学生・留学体験者大集合！

海を越えた島大生

勉強に情熱を注いだ1年間再び島根を訪れ「学び」と「友好」を深めたい

ダッサダボンさん
(ラオス「ラオス国立大学」からの留学生)



ラオスでは日本の漫画やアニメの人气が高く、私自身も日本のアニメやドラマを見ているうちに、日本に興味を持つようになりました。

ラオス国立大学でも日本語を学んではいたのですが、文法や読み書きはできて、

実際に日本語を話す機会がありませんでした。なので島根大学に留学してから、日本語を話す力がぐんと伸びたと思います。また日本語だけでなく、能や歌舞伎、茶道や華道などの日本文化も一緒に学ぶことができました。



日本に来て驚いたのは、お年寄りが元気なこと！どこに行ってもパワフルに歩きまわるお年寄りの姿は、ラオスとは対照的です。また、ラオスでは見たことがなかった「雪」の美しさには大変感動しました。仲間とスキーに行ったのはとてもいい思い出です。

帰国後は就職する予定ですが、後輩たちに日本語や日本の文化の素晴らしさを教えてあげたいと思っています。島根はとても生活しやすく、先生も家族みたいにやさしい方ばかりだったので、いつかもう一度島根に戻ってきて、島根大学の大学院に入学するのが私の夢です。

01 島大自慢! 附属図書館



附属図書館

今年の春から島大生になった玉廣さん。「総合理工学部には明るい子が多く、いろいろなタイプの友達と交流できるのが楽しくて。自分と同じように、島根県以外の出身の学生が多いことにも驚きました」

そんな玉廣さんに、松江キャンパス内でのお気に入りのスポットを聞いてみると「附属図



教えて!先輩! 動画公開中

高校生の皆さんの疑問に、先輩が動画でお答えします。スマホをお持ちの方は、ぜひご覧ください!

ご利用方法

Androidの場合→GooglePlay
iPhoneの場合→App Storeで
「Junaioジュナイオ」を検索してダウンロード

「Junaio」を起動後、画面右上の
ボタンをタップ。
「チャンネル用QR」をスキャン

QRをスキャンすると、
チャンネルのダウンロード
が開始されます

玉廣さんの写真に
カメラをかざすと動画が再生



薦めてくれた人
玉廣 将平さん
(総合理工学部1年生)

「個人的にはパソコン室でレポートをつくったり、閲覧室で勉強するのが好き。とても静かな環境なので、テスト期間中など、一人で集中して勉強したい時に積極的に活用しています」
また、グループでディスカッションしながら学習したい時は「ラーニングコモンズ」がおすすめ。人数に合わせて機の配置を変えられるうえ、壁面がホワイトボードになっているのも便利。
「雑誌類も充実しているので、気軽に利用したいですね。いずれは、TOEICや就職関係の専門書も活用したいです」

02 ここにも注目! 図書館コンシェルジュ



図書館コンシェルジュ
青木 紳次さん
(教育学部4年生)

おぼくのおすすめ

「本が大好き! 島大の図書館は大変良い環境なので、自分もコンシェルジュとして活動しようと思いましたが」と語る青木さん。現在、週に2~3回はカウンターに入り、返却図書の整理や、特別展示の企画、広報誌の発行など、様々な企画に関わっています。

「今後は、主に洋書を紹介していきたいですね。英語で書いてある、というだけでかまえてしまう方も多いですが、易しい英語で書かれた本もたくさんあるので、もっと気軽に読んでもらえたらうれしいです」

青木さんおすすめの1冊

写真記録

この子らと生きて

—近藤益雄と知的障がい児の生活教育



私財を投げ打って障がい児教育に人生を捧げた近藤益雄さん。その活動記録が、美しい詩と入魂の写真で綴られています。「2年位前に読んだ時には『こういう子どもたちもいるんだな』くらいにしか思わなかったけれど、最近改めて読み直して見ると『生徒に寄り添うとはこういうことなんだな』と改めて実感。教育実習などでの実体験をしたからこそ、より心に響くものがあつたのだと思います。」
写真と詩しかないのに、読者が自由に想像できるのもいいですね。特別支援教室について知らない人にもぜひ手に取ってほしい1冊です」
(青木さん)

出雲キャンパス篇

おまかせ!
AEDなら



企画した人
安田 慎一さん (医学部5年生)

03 地域イベントで
ボランティア!
【BLS
(一次救命処置)
講習会】

BLSとは、一次救命処置(Basic Life Support)の略称で、誰にでもできる命を救う流れのこと。安田さんは6月に隠岐の島町でBLSの講習会を企画開催しました。

「毎年隠岐の島で開催される『隠岐の島ウルトラマラソン』に参加するランナーに向けて開催しています。今年は、約20名のランナーに心肺蘇生の仕方やAEDの利用法などをレクチャーしました。『毎



年実習を受けておかないと、いざという時実践できない」と、3年連続で受講された方もおり、皆さんからの「一分かりやすかったよ」の声は何よりの励みです」

今回の講習会の運営は「自身のスキルアップになった」という安田さん。「改めて自分自身のBLSに対する知識や技術を向上できました。地元消防士の方から、現場でのリアルな体験を伺うことができたのも大きな収穫です。また、講習会の運営にあたり、地域の方たちとの人間関係も広がりました」

ちなみに安田さんはマラソンにも参加。50kmを見事完走されたそうです!

体力あり!
自信あり!



優勝した人
今竹 ひかるさん
(医学部4年生)

04 キラリ! キャンパスの星
隠岐ウルトラマラソン 女子29歳以下の部で優勝

今年6月に開催された「隠岐の島ウルトラマラソン」に出場した今竹さん。なんとマラソン初挑戦ながら、女子29歳以下の部で見事優勝を果たしました!「陸上競技は中学生の時から続けています。トラックレースで比較的短い距離を速く走るのとは違い、長い距離をゆっくり走るマラソンなら、景色や大会の雰囲気などを楽しめそうと思ひ、参加しました」



出雲キャンパスの陸上部に所属し、日頃から週3回の練習をこなしていますが、アップダウンが厳しい隠岐の島ウルトラマラソンに備え、坂道の多いコースを走る練習を増やしたそうです。「出場する医学部の学生が集まり、10km〜20km程度走る練習会にも何度か参加してはいたのですが、さすがにアップダウンが激しい上に50kmという長距離コースは、とにかくきつかった!の一言。一緒に参加したメンバー同士で励まし合い、頑張って完走することができました。そして島民の方の温かい応援が何よりの力になりました!」と今竹さん。

マラソンを走りきった経験を糧に、「先生と話すときと安心する、と患者さんに言ってもらえるような医師になる」という夢に向かって「直線に突っ走れそうですね。」

経済インフラやテロの現状 留学生がアフガニスタンの今を語る



7月19日、島根大学教養講義

室棟で島根大学国際理解公開セミナーが行われました。「現地留学生に聞くアフガニスタンの今」と題されたこのセミナーには学

生、一般市民を含めて約50人が参加。教室の壁には現地で撮られた現在のアフガニスタンの写真がかけられ、民族衣装を着た人が多く見られました。

1970年代から続く紛争によつて国内の経済インフラが破壊されたり、タリバン勢力によるテロ

行為が続いたりする環境下で、現地の人々がどのような生活を送っているのかなど、アフガニスタンの現在の状況について知る機会とするのがこのセミナーのねらいです。

アフガニスタンから島根大学に留学中のJICA（独立行政国際協力機構）奨学生3人と、現地で協力活動に従事してきたJICA客員専門員の上堂菌明さんが講演しました。

モハメド・イーサンさんは歴史と文化について、サボリ・モハメド・シヨアイブさんはアフガニスタン周辺の環境とそれに対する自然産業農業について、アブドウル・ザヒル・マテインさんは地域ごとの職種の違いや学校のことに関して英語で発表しました。

上堂さんは、日本が行っているアフガニスタンへの支援活動について講演。交通渋滞や水資源等の都市問題が引き起こされ、農村では行政サービスなどが欠如していることをビデオで参加者に紹介しました。そしてJICAは首都圏や農村の開発支援や、アフガニスタンの行政官、大学教員を日本の大学で受け入れる支援をしていることなどを説明しました。

参加者からの質疑応答の時間では、留学生がそれぞれ着ている民族衣装の特徴や現在のアフガニスタンの紛争についてどのように考えているかなどの質問に答えました。

(学生プレス研究会・金崎智、小谷大地)

半年の軌跡二目で

島大新聞4・7号を展示

島根大学学生プレス研究会(以下プレス研)は6月16日から5日間、大学会館1階で同研究会が

発行している島大新聞を掲示・配布し、アンケートを募集しました。島大新聞はA2版に拡大、

4号から7号および特別号の計5枚をパネルに掲出。アンケートは「島大新聞を読んだことがありますか？」など8項目を問いました。

プレス研は昨年6月、島根大学と山陰中央新報との包括協定締結によつて同月に誕生した学生団体。現在18人が所属しており、月一回を目安に島



島根大学邦楽部が 七夕演奏会を開催

島根大学邦楽部は7月7日、七夕演奏会を松江キャンパスの大学会館3階で開催しました。島大生やOBが鑑賞、約1時間わたる和楽器の調べを楽しみました。演奏したのは「れんげ草と蜜蜂」「情熱大陸」など計5曲。特に1曲目の「鶴の聲」は新入部員や新たな楽器に挑戦した上回生が演奏し、楽器の音色とともに、軽やかな歌声が会場に響き渡りました。演奏後、部長の中井崇善さん(生物資源科学部3年生)は「一つ一つの曲で完成度が高い演奏ができたが、まだまだ改善の余地はある。秋の定期演奏会に向け、夏休みを通して稽古を重ねたい」と今後の活動に向け抱負を語っていました。同部は11月に定期演奏会を予定しています。

(学生プレス研究会・平等正裕)

大新聞を発行しているほか、取材や撮影、原稿からレイアウトまで学生が手がけています。島大新聞は2面構成で、教養講義室棟や各学部棟などに掲示し、食堂やカフェに

荒れた森林を元気にしよう!
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

みんなで
森を守ろう!

山陰合同銀行

島根大学オリジナル芋焼酎
神在の里 好評発売中

生物資源科学部神西砂丘農場で生産されたサツマイモ「ベニアズマ」を原材料とした「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml) 2本入りセット...3,200円(税込)

島根大学生協同組合
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 Tel.0852-32-6240
http://omise.seikyoku.jp/shimane

印刷テクノロジーで、
世界を変える。

TOPPAN

凸版印刷株式会社 www.toppan.co.jp
松江営業所 〒690-0887 島根県松江市殿町383 山陰中央ビル7F

はラミネートされたものを置いています。

プレス研代表の平等正裕さん(法文学部2年生)は今回の掲示について「前回よりも反響は大きかった」と手応えを感じた様子。しかし、「新聞自体の知名度はまだだ。より魅力的な紙面を提示することで島大生への周知をはかりたい」と意欲を見せていました。

(学生プレス研究会・福島達也)



松江キャンパス

ユースホステルクラブ



仲間と過ごす楽しい時間が、部全体の一体感を高めます。

見知らぬ土地でのハプニングが
自分を成長させる

学業の合間をぬって、秋から春は国内旅行や近隣の町歩き、初夏から夏にかけては登山、キャンプ、ハイキングなどの野外活動と、全員参加を原則にアクティブに活動するユースホステルクラブ。今年3月には四国を巡り、8月の合宿では雲仙普賢岳登山に挑戦しました。



出雲・真山城跡にて。地元の自然や文化も楽しめます。

旅のモットーは「安全で安価」。プランニングや下調べ、資料調達さらには合宿登山に向けたトレーニングと入念に準備を行います。

ですが、予定通りに運ばないことも。部長の濱口拓也さん(生物資源学部3年生)は「大変さを感じる時もありますが、旅に出ればそれも良い思い出に。色々なハプニングに遭遇して、少しは判断力や対応能力がついたかもしれませんね」と満面の笑顔。

見知らぬ土地への憧れと未知なる体験や出会いが、メンバーを懐深く成長させているようです。

出雲キャンパス

手話サークル



手話を通して、学外の方とも交流の輪が広がります。

楽しみながら手話を身に付け
様々な患者さんに対応できる
医療従事者に

手話サークルでは毎週月曜日、聴覚障害がある方を講師に招き、勉強会を開催しています。

「正しい手話を身に付けるのと同様に、例え手話が分からなくても、相手が伝えようとしていることを想像する力、伝えようとする努力が大切だと感じるようになります。また、講師の方から日々のエピソードを伺うことで、聴覚障害がある方々への理解が深まり、接し方など色々なことも学んでいます」と部長の畠准子さん(看護学科2年生)。



和やかな雰囲気の中、真剣に手話を練習するメンバーたち。

勉強会の中心は講師とサークルメンバーですが、時折、手話通訳者の資格を持つ小林裕太教授による通訳や解説が加わり、学びや気づきをより深めています。

また、こうした機会をより多くの人と共有したいと、学外からの参加も受け入れ、現在、出雲市内の専門学校生が共に学んでいます。

神話第五章のはじまり

新加入日本人 3選手に直撃！！



河相智志

(ポジション:ガード)



高田秀一

(ポジション:フォワード)



安部 潤

(ポジション:ガード)

昨シーズンは11勝41敗という結果に終わってしまったスサノオマジック。しかし、神話第五章となる今シーズンは、外国人4人を含む9選手が新たに加入。まさに新生スサノオマジックとしての船出となります。今回は新加入選手の中でもキーマンになると思われる、3選手に直撃インタビューを行いました。

入団前のチームの印象は？

河相: 同じ中国地方(広島県)の出身で試合の観戦経験もあり、松江はバスケットが盛んということを感じているので、すごくいい印象があります。
安部: 会場をいつも熱心なブースターさんが埋め尽くしているイメージがあり、そういう場所で試合ができることをうらやましく思っていました。
高田: 同じ西地区(高松→大阪→大分でプレー)で島根とは何度も対戦していますが、島根と言えば、ジェラルド・デービス※選手のイメージが強いです。
※ジェラルド・デービス(2010~2014年に在籍、216cmと当時のbjリーグ最高身長選手でブロックショット王を3回獲得)

見てほしいプレーは？

河相: 年齢(32歳)のわりががんばるところ(笑)。あと球際の強さ。
安部: スピードが持ち味なので、それを活かしてチームを勝ちに導きたいです。
高田: レイアップシュートの速さとディフェンス時に外国人選手と競り負けない強さ。

今シーズンの目標は？

河相: チームが先シーズンあまりよくない成績だったので、勝ち星に全力で貢献します。
安部: 個人的な目標よりチームがプレイオフ、そし

て有明※に行けるように頑張ります。

高田: チーム一丸となって有明に行けるよう頑張ります。とにかく勝ちたいです。
※有明…有明コロシアムの路でbjリーグのファイナルが行われる舞台。

読者にひとこと

河相: 一つでも多く勝って期待に応えたいと思います。
安部: とにかく会場に来ていただいて、地元・島根のチームを後押ししてください。
高田: ブースタークラブに入会して、応援してください!

島根スサノオマジックの最新情報・試合・チケットなど

島根スサノオマジック

検索

お問い合わせ先

島根スサノオマジック事務局 0852-60-1866 (平日10時~18時)

島根大学支援基金寄附者一覧 ご協力ありがとうございました。

(平成26年5月16日~平成26年8月15日にご寄附いただいた皆様)
(五十音順・敬称略)

個人からのご寄附

- | | | |
|--------|--------|-------|
| 石飛 周一 | 田中 薫 | 本田 光宝 |
| 河原 浩一郎 | 中須賀 敏幸 | 馬庭 洋美 |
| 重元 和夫 | 永田 まち子 | 三上 良紀 |
| 清水 義男 | 花岡 正光 | 宮崎 和明 |
| 菅井 達郎 | 東 正博 | 行武 禎一 |
| 竹永 三男 | 福島 律子 | 吉田 昭寿 |
| | 藤本 正昭 | 吉見 颯 |

島根大学では学生に対する修学支援及び社会貢献事業を充実させるため、「島根大学支援基金」を募集しています。寄附書はホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。TEL:0852-32-6603(総務課)
ホームページ
http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund_recruit/

※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載しておりません。

投稿の
お願い

『広報しまだい』は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿先

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学 広報室
TEL: 0852-32-6603 FAX: 0852-32-6019
E-mail: gad-koho@office.shimane-u.ac.jp
ホームページ: <http://www.shimane-u.ac.jp>

PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工された「イチゴジャム」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。
※応募締切/平成26年12月12日必着



編集後記

梅雨明け以降、暑い日が続いていましたが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。本学のオープンキャンパスも終わり、受験生の方々にとってはこれから本格的に志望校を決めていく時期になることと思います。

私事ですが、高校3年生のいところ、この度の本学オープンキャンパスに参加しました。詳しい学部紹介を聞き、学内を自分の足で歩いてみることで以前よりもっと島根大学に通いたいという気持ちが強くなったそうです。大学について知ることは志望校選びに重要なポイントの一つでもあります。広報しまだいでは、学生の活動や地域の方々への声、大学の行っている事業、研究などを毎号盛りだくさんでお届けしています。そして今号では、社会人1年目の卒業生の声も取り上げています。島根大学に入学した、さらに将来のイメージがぐっと鮮明になるのではないのでしょうか。

さて次号の広報しまだいは、来年1月発刊予定となっております。どうぞお楽しみに。

いま、紐解かれる神話の世界。

出雲国風土記の中でも

壮大なスケールで語られる

「くにびき神話」。

そこには、物語としては見過ごせない

地形や地名の合致が多数見られます。

当フォーラムでは、

弥生時代から

奈良・平安時代頃にかけての

出雲地域と他地域との交流について

地質学・考古学・文献史学の立場から

学術的にアプローチしていきます。

島根大学広報誌 Shimadai 2014年10月発行 編集・発行 / 島根大学 広報室 〒690-8504 松江市西川津町1060 TEL (0852) 32-6603 FAX (0852) 32-6019 http://www.shimane-u.ac.jp/



文化庁所蔵



文化庁所蔵

古代出雲文化 フォーラムIII

Forum on Ancient Izumo Culture

「くにびき神話」と古代出雲・伯耆の成り立ち

平成27年

3月8日

13:00~16:00

大阪国際会議場

(グランキューブ大阪) 10F会議場
大阪市北区中之島5丁目3-51



定員 1,000名

参加費 無料

参加には事前のお申し込みが必要です。

主催：島根大学



青戸 慧作「大國主命と白兔」 加納美術館所蔵



荒神谷遺跡出土状況 文化庁所蔵



加茂銅鐺 文化庁所蔵

プログラム 司会 / 石原 美和(元TSKアナウンサー)

第1部 シンポジウム (13:10~14:40)

コーディネーター 會下 和宏 島根大学ミュージアム准教授

趣旨
説明

野村 律夫 「くにびきジオパーク」
島根大学教育学部教授・島根大学くにびきジオパーク
プロジェクトセンター長・島根大学汽水域研究センター長

1

「地質学的にみた
古代出雲世界の舞台
～島根半島・ラグーン
(宍道湖・中海)の形成～」

入月 俊明
島根大学総合理工学研究科教授・
島根大学ミュージアム館長

2

「考古資料が物語る
古代出雲成立以前の
朝鮮半島と山陰」

平郡 達哉
島根大学法文学部准教授

3

「東アジア世界の中の
古代出雲—「国引き神話」・
新羅・渤海—」

大日方 克己
島根大学法文学部教授

4

「『出雲国風土記』と
遺跡からみる広域交流」

大橋 泰夫
島根大学法文学部教授・
島根大学古代出雲プロジェクトセンター長

第2部 鼎談 (15:00~16:00)

小林 祥泰
島根大学学長

千家 和比古
出雲大社権宮司

石原 美和

お問い合わせ先

島根大学総務部総務課 TEL 0852-32-6014 FAX 0852-32-6019 E-mail forum@office.shimane-u.ac.jp
(〒690-8504 島根県松江市西川津町1060)

<http://www.shimane-u.ac.jp>

島大

検索